



主催 7 団体を代表してあいさつする河北新報社の加藤伊佐雄専務

第52回宮城県芸術祭開幕

今年からピアノコンクールも



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 大場 尚文

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

第52回宮城県芸術祭の開会式は、9月25日午前9時45分から、せんだいメディアアテーク5階の書道展会場前で行われた。式典には主催7団体の公益社団法人宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、公益財団法人宮城県文化振興財団のほか、後援団体の関係者と来賓、芸術協会役員、書道・工芸部の会員などが多数出席した。

芸術祭会長の大場尚文芸術協会理事長が「52回目となった宮城県芸術祭は、昭和39年の第1回展から一度も欠かすことなく開催され、会員の芸術活動の発

表と県内の芸術分野の振興に努めてきた」とあいさつ。さらに「これまでの芸術祭を踏襲した上であらためて、10年先20年先を見据え、新たな価値の創造と次世代へ繋ぐための魅力ある芸術祭を目指したい」と述べた。

続いて、主催7団体を代表して芸術祭名誉会長の河北新報社代表取締役社長一力雅彦氏（加藤伊佐雄専務代読）があいさつした。来賓が紹介されたあと書道部、工芸部が作品紹介を行い、会員展には書道部で6割以上、工芸部で9割以上の会員が出品しているなどの説明があった。

その後、主催団体代表者によ

表彰式は 11月26日 ホテルメトロポリタン仙台で

第52回宮城県芸術祭の表彰式は、11月26日（木）午後6時から、ホテルメトロポリタン仙台で開催される。本年度から芸術祭に来年2、3月実施のピアノコンクールが加わったため、従来の閉

会式は名称が表彰式となる。表彰式のあと、各部門の受賞者や芸術協会功績者を囲み、来賓と芸術協会が参加して祝宴が開かれる。部門を超えた会員同士が交流できる数少ない機会でもあり、多くの会員の参加が望まれる。会費は6千円で、当日会場での納入となる。参加希望者は11月24日（火）まで、芸協事務局へ。

るテープカットで、今年の芸術祭が開幕した。

今年度の芸術祭は9月25日の開会式を皮切りに、11月26日の表彰式を経て、3月20日の事業終了まで、6カ月にわたり開かれる。芸術祭に一般公募を先行導入して4年目となる絵画、彫刻、写真に加え、文芸部でも昨年からは一般公募を行っている。さらに、後進の育成を目的に35回続けて来た小・中学生対象のピアノコンクールも今年度から芸術祭事業に組み込まれ、対象を高校生まで拡大して、2月に予選、3月に本選が行われる。

また今年の巡回展は、栗原市築館の栗原文化会館で10月27日～11月1日に絵画・書道展が開かれた。

公募展・作品公募も盛況

芸術祭の絵画・彫刻・写真の公募展は10月2日から7日まで、せんだいメディアアテークで開かれた。今回で4回目を迎えた公募展は、応募数が絵画138点、彫刻6点、写真297点と盛況であった。ただ、応募点数は足踏み傾向にあることから、応募数の拡大のための更なるPRが求められる。

2回目となる文芸作品公募では、10月17日、仙台市の戦災復興記念館で開かれた文芸祭で、詩、短歌、俳句、川柳、エッセイそれぞれの入選作品が発表された。ジュニアの応募数は学校数、人数ともに前年を大きく上回り、今後の発展に期待を抱かせた。



テーマは「白萩と伊達政宗」 小次郎は生きていたとの新説も

書道部
研修会

書道部研修会
は「白萩と伊達政宗」をテーマに9月27日午後2時から仙台市青葉区のエル・パーク仙台で開催された。
講師は元仙台市収入役の東海林恒英氏と前仙台市博物館長で当協会文芸部(俳句)会員の佐藤憲一氏。両氏の講演後、書道部の池田僊雲執行理事がコ－ディネーターを

多くの市民も詰めかけた書道部研修会

務め、政宗の書や絵画、政宗と弟小次郎の関係などについて、それぞれの調査研究にもとづいた興味深い鼎談があった。この研修会で佐藤憲一氏が「小次郎は政宗に殺されてはおらず、白萩の寺として有名な江戸の大悲願寺(現東京都あきる野市)で密かに生きていた」とする、通説とは異なる新しい見解について話した。事前にこのことを知った一般市民も会場に詰めかけ、入場者は80人余りにのぼった。

書道展揮毫会も好評

芸術祭書道展会期中の9月27日、「受賞者による揮毫会」が、書道展会場のせんだいメディアテーク6階ホワイエで開催された。当日は漢字・かな・篆刻・近代詩文・少字・墨象の各部門の受賞者20人のうち、19人が参加した。

恒例となったこの揮毫会は、芸協会員はじめ一般来場者にも大変好評で、会場には200人近い多くの参加者が訪れ、各受賞者が緊張した面持ちで揮毫する一挙手一投足を見守り、揮毫後の解説等に聞き入った。

和やかな雰囲気 で文芸祭

第52回宮城県芸術祭「文芸祭」は10月17日仙台市戦災復興記念館で開催された。

第一部では、「第2回文芸作品公募」の表彰と講評が行われた。表彰式は特にジュニア部門の家族を伴う参加者が多く、会場は和やかな雰囲気にも包まれ盛況であった。

作品の公募は詩、短歌、俳句、川柳、エッセー(一般のみ)

の5部門で応募者・作品数は

トータルでジュニア165人196編、高校生1人2編、一般200人452編に上った。作品の数では初年度とそれほど差はないが、今年は質的向上が見られ、活性化へ向けての貢献も果たせたことになる。3年目を以降はPR活動に努め、更なる応募数の増加に期待が寄せられる。

第二部では恒例の、文芸賞受賞者による受賞作品の朗読と感

バス車中では担当委員の解説や参加者の作品発表があり、存分に文学を堪能することができた。

秋空のもと文学堪能 文学散歩は郡山・会津方面へ

今年の文学散歩は、9月29、30日の一泊二日で行われた。参加者は31人で、郡山の文学の森資料館、会津若松の鶴ヶ城公園、御葉園、圓蔵寺等を訪ねて多くの文学碑などを見学。秋空に恵まれた気持ちの良い文学散歩となった。移動の



歌碑の説明に聴き入る参加者

懐を、受賞者7人が発表した。

「2015宮城県文芸年鑑」は10月15日刊行された。今回も巻末には文芸作品公募優秀賞受賞作品が掲載された。

また昨年同様「文芸作品公募入選作品集」も作成され、応募者全員に配布された。

新入会員

【工芸部】

- 〈陶芸〉▽大沼明子(仙台市若林区)▽清野妃呂子(仙台市宮城野区)〈七宝〉▽松本幸恵(仙台市青葉区)

【書道部】

- ▽橋本道代(大崎市古川)▽山田華鳳(宮城郡松島町)▽菊田杏仙(気仙沼市)

【華道部】

- 〈花芸安達流〉▽西巻瑞瞳(大崎市古川)〈龍生派〉▽齋藤貞月(仙台市青葉区)

【洋楽部】

- ▽寺澤絢子(仙台市青葉区)

【茶道部】

- 〈表千家〉▽千葉宗紀(宮城郡利府町)▽田邊宗里(仙台市太白区)〈遠州流茶道〉▽加藤宗苑(仙台市青葉区)▽佐藤宗麗(仙台市青葉区)▽三浦宗啓(仙台市青葉区)

栗原文化会館で絵画・書道展

巡回展



開会式でテープカットをする主催者代表

今年度の芸術祭巡回展は、10月27日から11月1日まで、栗原文化会館で絵画・書道展を開催した。栗原地区での絵画・書道展の開催は、平成13年の第38回芸術祭以来、14年ぶり。

会場には絵画（日本画及び洋画）の49点、書道の36点の作品が展示された。展示された作品は、第52回宮城県芸術祭の受賞

者や協会役員の作品が中心。これに加えて今回は開催地区にゆかりのある会員の作品が絵画で15点、書道で9点展示され、例年の点数を大きく上回った。

10月27日に開催された開会式では、協会から大場尚文理事長、千葉蒼玄書道部長、及川英之絵画部副部長等が出席。大場理事長からは、本協会に縁の深い栗原地区と本協会とのエピソードが盛り込まれた挨拶があり、テープカットの後、各部担当者による作品解説が行われた。会期内の来場者は332人。

芸術祭茶会は輪王寺で13流派がお点前を披露

茶道部13流派による芸術祭茶会は、仙台市青葉区北山にある輪王寺の半杓庵、隠寮など四つの茶室を使用して、10月11・18・25日の三回にわたり開催された。各回とも各流派が濃茶席、薄茶席、煎茶席に分かれてお点前を披露し、お茶とそれぞれが趣向を凝らしたお菓子でお客様をもてなした。今回は特に学生や外国人の来場も目立ち、三日間の総来席者は4000人ほど



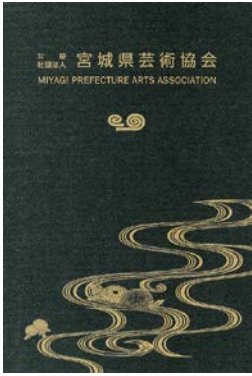
濃茶のおもてなしを受ける大場理事長ら

の役が私に振られてしまいました。主任が部長と名前が変わってもお世話役を続けさせて頂き、主任をお引き受けしてから20年にもなっていました。

この間、ただ長く務めただけで皆様のご期待に十分には添えなかったのではと反省しきりです。が、こまめに感謝申し上げます。

芸協を紹介するパンフ発行 賛助会員の募集などに活用

宮城県芸術協会はこのたび、創立以来初めてとなる協会を紹介するパンフレットを発行した。体裁は変形A5版6頁。表紙



が黒地に金文字、本文は金地に白抜き文字で、内外に伝統的な流水紋を配し、すっきりしたデザインとなっている。

内容は芸協の設置目的、会員数、事業内容、活動状況など。芸協12部門が写真入りで紹介されている。

本年度の芸協は正会員、賛助会員拡大に重点的に取り組んでおり、その広報活動に活用される。五千部印刷され、今回は会員に一部ずつ送付されたが、会員拡大に使用される方は部数を事務局までご連絡いただきたい。



20年間の主任・部長を振り返って

茶道部前部長 大和田宗嬌

顧みますと、昭和32年に輪王寺に半杓庵ができ、有井凌雲先生のお声がけて茶室建設に協力した表千家、裏千家、江戸千家、三彩流、石州清水流の5流が昭和41年に芸術協会に加入、翌年から芸術祭茶会を始めました。平成14年には現在の13流となり、茶道部にますます活気が溢れ、芸術祭茶会もより華やかになりました。私が芸協の仕事を手伝って頂くようになったのは、裏千家の重鎮だった坂元宗恵先生の言葉か

の役が私に振られてしまいました。主任が部長と名前が変わってもお世話役を続けさせて頂き、主任をお引き受けしてから20年にもなっていました。

仙台・大邱交流事業

今年は大邱で 絵画・写真展

大場理事長ら 12 人が訪韓



上：交流展のテープカット 下：交流協議のようす

相互の交流を通じて、芸術文化の発展と友情を再確認。今年度の仙台・大邱交流事業は、10月11～16日、当協会から大場尚文理事長以下12人が訪韓して実施された。

11日夕、仙台から直行のアシアナ航空便で仁川へ。専用バスに乗り継いで、午後8時過ぎ大邱のホテルに入った。歓迎の食事会で、大邱芸術の柳螢佑会長は「ご一行を大歓迎いたします。昨年、私たちが仙台を訪問した折、温かい歓迎を受けたことを決して忘れません」と述べた。

翌12日は交流展の初日。大邱文化芸術会館で朝から展示作業を行う一方、当協会と大邱側役

員との交流協議が行われた。午後6時からはオープニングセレモニーが会館の前庭で開かれ、肌寒い天候の中、大邱の若者たちの太鼓演奏と踊り、合唱などが出席者を魅了した。

「仙台・大邱交流絵画・写真展」には当協会から絵画26点、写真21点が出品・展示された。会場の大邱文化芸術会館2階展示場は、一回りすると疲れてしまうような広さで、うらやましいほどの施設であった。

14日は終日、新羅900年の都だった慶州観光で、世界遺産の仏国寺、石窟庵、国立慶州博物館などを訪ねた。古墳公園に集中する円墳群は見事な光景だった。夜は日本料理店で食事をとったが、顔を出してくれたイ・カンタンテイ団長の独唱には、一同圧倒される思い。返礼に、雫石隆子執行理事が独唱を披露する一幕も。

滞在最終日の15日は、絵画・写真展の撤収作業の後、ソウルへ移り、夜はソウル市内の散策。女性陣の大半は韓国式の垢すりで、疲れを癒やしたようだ。

来年は7月下旬、せんだいメデアテークでの絵画・写真展を軸に、交流事業が行われる。

高倉勝子先生ありがとうございました

絵画部 (日本画) 新藤 圭一



退職後、対象物をよく見て、描く技は縁があり スケッチ集に貯められ、山、動物、花、草木、家族等が作品で出会った。私は古里の松林を描いた作品に、いつも見惚れておりました。北上川や郷里に対する想いが強く、家族や、桜、椿、撫子、葛、土筆などが好きだったようで、多く描かれております。

現在の登米市の豪農に生まれ、女子美術大卒業後教職について間もなく結婚。夫の任地広島で被爆し、戦後、不安と失意の体で郷里に帰られ、以後教職の道を三数十年歩きました。画業は、毎日寝る間を惜しんで精進し、多くの作品を残されました。その内容は作品画集「悠一祈り・いのち・風流・大地」や登米市の高倉勝子美術館で鑑賞することが出来ます。また、日本画や水墨画の教室を主宰し、多くの生徒を育て上げられました。教え子は異口同音に「先生は熱く、厳しく、優しい人」と言います。戦前・戦後の厳しい時代を生き抜いたからこそ、人の痛みが分かる心をお持ちの教育者であったのだ、と思います。

晩年、被爆体験に向き合っていた作品「原爆の図」では、平和の尊さも教えて頂きました。術協会では名誉会員を務められ、永年教育功労者、県・市の文化功労者、後年には紺綬褒章を受章されました。

自身では質素と儉約を守り、郷里に美術館を寄贈されました。これは、みやぎの明治村を元気に付けたことと思います。七月初め、入浴後に、安らかに逝かれました。たとお聞きし、大往生であったと思います。本当の絵描き人の妻さを教えていただきました。高倉勝子美術館に行くたびに先生にお会いできるような気がします。ありがとうございました。 合掌

吉林省長春で北東アジア国際書道・絵画・写真展 芸協からは書と写真を出展

8月31日から9月6日まで中国吉林省長春市の北東アジア芸術博物館で「第6回北東アジア国際書道・絵画・写真展」が開催された。当協会からは書と写真を出品するとともに、書道部の池田僊雲執行理事、写真部の佐々木光一執行理事と鈴木忠一会員が開会式に出席した。

この展覧会では中国をはじめ、日本、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアの北東アジア六カ国の芸術家の作品が一堂に展示された。今回で六回目となるが、芸協からは初めての参加。

8月初めに、吉林省と友好協定を締結している宮城県から、吉林省との文化交流促進のためにと出展の要請があった。常任理事と該当部門との協議の結果、書道部と写真部が協力することになった。県の要請から作品搬入までの日数が短い中で、両部門とも積極的に対応。芸協からの出展は書19点、写真26点に上った。



北東アジア国際作品展 上：開会式 下：交流風景

開会式後の歓迎会では、宮城県から同行した高砂義行経済商工観光部次長らとともに熱烈な歓迎を受け、吉林省文化庁副庁長からは「芸協からの多くの出展に感謝する。これを機に交流事業の再開を具体化する作業を進めたい」と、前向きな発言もなされた。また、池田僊雲執行理事が即興で揮毫を披露するなど、芸術家同士の交流も深めた。

芸術祭絵画展受賞者作品展

東京エレクトロンホール宮城で一月開催

第52回宮城県芸術祭の絵画展受賞者作品展が、1月19日（火）から24日（日）まで、仙台市青葉区の東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）5階展示室で開かれる。

この作品展は、平成21年の「宮城の気鋭展」から続く企画で、今回で8回目となる。今年も昨年と同様、公益財団法人宮城県文化振興財団との共催で実施する。

作品展には芸術祭絵画展の受賞者作品に公募展で受賞した新進気鋭の作家の作品も加わり、合計29名による力作が展示される予定である。入場は無料。

小崎隆雄名誉会員の死を悼む

名誉会員 渡辺 雄彦



先輩の小崎さん、お二人ともやがて指導主事に
なると、昨年夏ごろには抗がん剤の効果もなく、治療終了を病院から告げられていたようだった。それ以来、酸素ボンベに車椅子の生活が続いていたので、あ十五日に日赤仙台病院に見舞った時は比較のお元気で、二人きりでいろいろ話し合ったばかりだった。それから2週間後のことだったので、知らせを受けた時はショックであった。

小崎さんは、私が東北大に入学した時の4年生で、新制大学の1回生だった。同じ学年には、今は亡き千葉節夫さんなど多いが、頼もしい先輩達に見えた。両先輩はその頼もしさを、卒業後にもわれわれ後輩に示してくれた。それは、お二人とも教職に就かれたが、美術関係の教師は管理職とはほとんど無縁だと言われていた当時の常識を覆

このように画業においても活躍が目ざましく、光風会会友（途中退会）、日展会友、日洋会委員、河北展参与など立派な経歴を残された。ただ晩年には体調不良で大作の制作が思うようにならず、さぞ残念だったと思う。こんな中で、八月末までカルチャー教室で教えることができたのは一つの救いであった。謹んで先輩の在りし日を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

事務局日誌

会務報告

8・7 理事会
○新入会員（正会員）の承認につ
いて
ほか

後援

- ☆第68回春光会展
第1期 8月18日～23日
大崎市民ギャラリー緒絶の館
第2期 8月25日～30日
美里町近代文学館
☆第3回青蓮社中展
9月22日～27日
東北電力グリーンプラザ
☆第45回宮城書芸院書展教育部展
9月25日～27日
大崎市民ギャラリー緒絶の館
☆第12回桃源書展
10月16日～19日
せんだいメディアテーク
☆第59回仙台三曲協会定期演奏会
10月18日
仙台市民会館
☆多摩美術大学創立80周年・校友
会設立20周年 多摩美術大学校
友会東北支部チャリティー展
10月20日～25日
晩翠画廊
☆総合書道研究蒼原社現代書展
10月23日～28日
せんだいメディアテーク
☆第28回みやぎ発明くふう展・第
19回みやぎ未来の科学の夢絵画
展
10月27日～31日
東北電力グリーンプラザ
☆第24回河北工芸展
10月30日～11月4日
せんだいメディアテーク
☆第40回素心書道会書展
11月3日～8日

- ☆宮城県美術館
☆第40回教育書道研究会学生部書
道展
11月3日～8日
宮城県美術館
☆第43回書道展―宮城書道研究会
11月13日～15日
登米市迫体育館
☆東北書道秀抜展
11月13日～18日
せんだいメディアテーク
☆小林千年・太田蓮紅・我妻宏也
三人展
11月14日～22日
美里町近代文学館
☆「東日本大震災復興祈念・宮城
県支部設立30周年記念」第30回
都山流尺八演奏会
11月15日
仙台市民会館
☆第23回宮城シニア美術展
11月19日～22日
宮城県美術館
☆東北生活文化大学生生活美術学科
創設50周年記念展
11月20日～25日
せんだいメディアテーク
☆第16回日本歌曲と朗読の夕べ
「虹色のそよ風」
11月21日
宮城野区文化センター
☆高橋麻子企画音楽の旅第十弾
「神秘の国」～スクリヤービン
没後100年を記念して～
1000年を記念して～
11月21日
仙台市シルバーセンター
☆第39回一般社団法人二科会写真
部東北地区公募展
11月27日～12月1日
山形県芸文美術館
☆混声合唱団クル・リュミエー
ル創立60周年記念第49回定期演
奏会

- 11月29日
東北大学百周年記念会館川内萩
ホール
☆第54回洗心書道展
12月3日～6日
宮城県美術館
☆第35回「日本の調べ」演奏会
12月5日
イズミティ21
☆第46回洋舞公演
12月6日
イズミティ21
☆子ども村東北支援のための
Charity Concert vol.3
12月8日
日立システムズホール仙台
☆歌曲のたのしみ三塚典子ソプラ
ノリサイタル2015
12月9日
日立システムズホール仙台
☆千葉蒼玄の世界2015
12月11日～16日
東北工業大学一番町ロビー

会員の入賞・入選など

- ◇第14回俳句四季大賞
渡辺誠一郎
◇第70回現代俳句協会賞
渡辺誠一郎
◇第63回二科会写真部展
◇会員推挙 笹川義信
◇会友推挙 福田絹子、紺野勝
司
▽入賞 福田絹子
▽入選 吾妻克美、鈴木忠一、
佐々木章逸、竹内邦昭、渡部う
め子
◇第62回日本伝統工芸展
▽日本工芸会奨励賞 木竹工
本間潔
▽入選 陶芸 橋本昌彦、諸
工芸 種澤有希子、安藤令子
◇改組新第二回日本美術展覧会
（第五科）入選 菅原滄風

◇第100回記念二科展
▽上野の森美術館奨励賞 石川
由巳子
▽入選 玉川浩嗣
受贈書（）は寄贈者
扇畑忠雄遺歌集（扇畑忠雄遺歌集
発行委員会）、第三歌集氣清（遠
藤和暢）、風雲月露―俳句の基本
を大切に（柏原眠雨）、句集 夕
雲雀（柏原眠雨）、宮城の現代詩
2015（宮城県詩人会事務局）
謹 弔
書道部 沼山祥葉殿
茶道部（武者小路千家） 大場守恵殿
7月1日
絵画部（洋画） 高橋信郎殿
7月27日
文芸部（俳句） あいざわ静子殿
7月28日
文芸部（俳句） 佐藤一好殿
7月28日
華道部（小原流） 小林隆雄殿
8月10日
絵画部（洋画） 小崎隆雄殿
9月21日
文芸部（俳句） 小林松風殿
9月26日
文芸部（俳句） 南部静季殿
10月16日
文芸部（短歌） 渡辺春代殿
10月25日
「二〇一五宮城県文芸年鑑」の訂正
100頁の「かのころそして」
を削除いたします。また254頁
の「柳多留250年記念式典句会」
と「第33回東北川柳連盟・第47回
山形県川柳連盟大会」は、中身が
入れ違って掲載されました。お詫
びして訂正いたします。
（文芸年鑑編集委員長）

けやきの譜

10月中旬の6日間、芸術協会
大邱訪問団の一員として、韓国
の大邱とソウルに赴いた。韓国
芸総大邱広域市連合会との交流
事業で、メーンは大邱・仙台国
際芸術交流展▼4面の本記でも
触れたが、絵画、写真、文芸、
茶道の各部から計12人が参加
し、両男の筆者がいたにもかか
わらず、好天に恵まれたさわや
かな一週間であった▼大邱との
お付き合いは、第1回の大邱で
の交流展が1995年だから、
もう20年になる。政治的にはぎ
くしゃくした日韓関係の中でも
仙台・大邱の文化交流はゆらぐ
ことなく、相互に訪問し合いな
がら友好関係を高めてきた。来
年は仙台へお招きする番だが、
大邱では大歓待を受けて来ただ
けに「来年はどうする？」と、
執行部は頭を悩ませているよう
だ▼それはともかく6日ぶりに
帰国してみると、日本国内は横
浜市のマンションに端を発し
た、建物の基礎工事のミスで大
騒ぎ。基礎のくい打ちの不備が
データの改ざん、流用、偽装な
どに発展し、連日絶句するよう
な報道ばかりで騒がしい。大邱
の澄み渡った青い空を、つくづ
く思い出す毎日であった。（恂）